

2025 年 11 月 2 日（日）第二礼拝「主を待ち望め」詩篇 42 篇 1～5 節

「わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。私の前で思い乱れているのか。」これは神様を信じる人の詩ですが、その人のたましいは絶望して、思い乱れている状態です。しかし、彼は「神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。」と告白しています。平安の王が私たちを統べ治める時、不安や落胆や恐れは主への賛美に替わります。

第一番目、不安や落胆や恐れの原因です。神様が私たちの心を統べ治められるなら、平安がきますが、逆に、私たちの心が悪魔の影響を受けるなら、不安や落胆や恐れが来ます。悪魔は神様の御座から追い出されたため、いつも不安や落胆や恐れがあります。これらの感情は悪魔によって作られました。そして、悪魔はその感情を人間の心に植え付けます。今日の本文は、悪魔に影響を受けた自分のたましいに向かって、「わがたましいよ。なぜ、お前はうなだれているのか」と語りかけています。ヘブル語の「シャローム」は、ギリシャ語で「エイレネー」と言い、「神様と心が一つになる」という意味です。たとえ、悪い環境に置かれたとしても、神様と私たちの心が一つとなるなら、平安を持つことができるのです。

第二番目、たましいの堕落です。神様が土のちりで人間を形造り、その鼻に聖霊(ルーク)を吹き入れられました。その時に生じたのが、たましいです。こうして、人間は生き物(Living soul)となりました。たましいは聖霊様のことばをよく聞いて、体に喜びを伝達します。そして、聖霊様が教えることばをもって、私たちは神様を「アバ、父よ」と呼ぶのです。しかし、サタンは人間の体を誘惑し、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢を吹き込んできました。そして、サタンが私たちの体に言うことを、たましいが聞いて、聖霊様を拒み、聖霊様と交わることができなくなりました。この状態を「霊が死んだ」と言います。イエス様が「水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができない」と言われたように、肉の状態では天国に入れません。ですから、私たちのたましいは御霊による再教育が必要です。私たちの霊が新しく生まれるなら、ふたたび神様の声を聞くことができるようになります。

第三番目、聖霊様が導く生活です。聖霊様の導きを受けるためには、毎日聖書を読み、御言葉を慕い求めることが大切です。「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。」(本文 1 節) 次に、祈りの生活が大切です。「私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。いつ、私は言って、神の御前にでましようか。」(本文 2 節) 御言葉を読み、それを握って祈る時、聖霊様の臨在が臨まれ、私たちに信仰(霊の目)を与えてくださいます。二千年前のイエス様の十字架の救いも、未来の御言葉の約束も、信仰によって今私たちは受け取ることができるのです。御言葉を信じることで、不安や落胆や恐れが追い出され、平安が臨みます。イエス様の死は私たちの死であり、イエス様のよみがえりも私たちのよみがえりであり、イエス様の勝利も私たちの勝利です。花婿と花嫁は一心同体ですから、イエス様の平安は私たちの平安です。世が与える平安とは違います。主の平安をもって私たちはこの世に打ち勝ち、勝利者となりましょう。アーメン！